

## レクリエーション指導者養成テキストにみる指導者像の変遷について

三橋 正幸 [財団法人神奈川県体育協会]

## はじめに

資格付与によるレクリエーション指導者の養成は、1951（昭和 26）年に指導者検定規程を制定した財団法人日本レクリエーション協会（以下、日本レク協会）によって開始された。検定規程は 1993（平成 5）年に廃止されたが、新たに公認指導者資格認定規程が制定され、2008（平成 20）年には公認指導者資格認定・登録規程と名称を変えながら、現在も運用されている。2007（平成 19）年発行の指導者養成テキストには「1990 年からこれまでの間だけでも、約 40 万人の人々がレクリエーションに関する学習を修了している。」とある。このことから、我が国のレクリエーション指導者の養成は、民間団体である日本レク協会の資格制度へ高く依存してきた歴史を認めることができよう。本稿は、レクリエーション指導者を養成するために日本レク協会が発行してきたテキストの中で、指導者像がどのように規定されてきたのかを報告し考察するものである。

## 指導者養成テキストの変遷

1993（平成 5）年までのレクリエーション指導者資格制度は 2 級、1 級、上級の階梯制度であったが、その後、領域ごとの新資格制度へと変遷した。階梯制度の時代には 2 級指導者資格を、その後も共通カリキュラムとしてレクリエーション・インストラクター資格の学習内容はすべての者が学ぶカリキュラムとして位置付けられていた。本稿ではすべての資格取得希望者が共通して学ぶことになっているテキスト内容が、指導者像を規定するうえで教育的示唆を与えてきたと推察し、焦点を当てることにした。次の表は資格を付与するためのレクリエーション指導者養成に使用されてきたテキストの変遷である。

表 1 レクリエーション指導者養成に用いられてきたテキスト

初版発行年	書 籍 名
1967（昭和 42）	レクリエーション指導者 指導のてびき
1971（昭和 46）	レクリエーション指導者 指導のてびき（赤）
1975（昭和 50）	レクリエーション指導者 指導のてびき（緑）
1978（昭和 53）	レクリエーション指導者 指導のてびき（黄）
1990（平成 2）	レクリエーション概論
1993（平成 5）	レクリエーション入門
2000（平成 12）	楽しいをつくる～やさしいレクリエーション実践～
2007（平成 19）	レクリエーション支援の基礎 ～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～

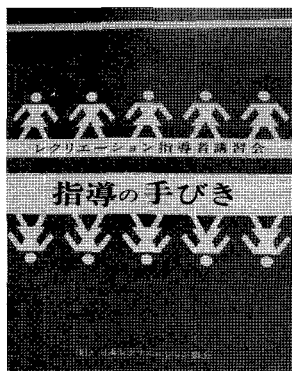
※レクリエーション運動の五十年（日本レクリエーション協会五十年史）から作成

※（赤）（緑）（黄）は表紙の色を指し書籍名称には含まれていない

日本レク協会がもっとも早く発行した指導者養成テキストは 1967（昭和 42）年の「指導のてびき」である。つまり、それ以前は共通のテキストが無いなか指導者養成講習会や検定が行われていたことになる。この年、指導者検定規程の審査基準の改定があり、はじ

他にも 1 級、上級、専門資格養成テキストとして、レクリエーション指導教本（理論編）（1974（昭和 49）年）、レクリエーション指導の理論（1982（昭和 57）年）、レクリエーション・マネジメント（1994（平成 6）年）、レクリエーション・コーディネートのおすすめ方（2001（平成 13）年）などが発行されている。

めて時間数が提示され、理論 10 時間以上、実技 20 時間以上、研究協議 4 時間以上の履修が受検条件とされた。時間数に準じたカリキュラムを実行するためにテキストが必要とされたものと思われる。1968（昭和 43）年 5 月と 1969（昭和 44）年 5 月、1970（昭和 45）年 4 月に発行された「指導の手引き」を確認したところ、次の状況が明らかになった。



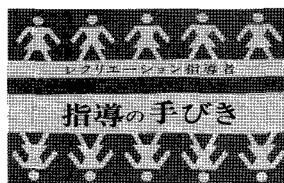
1968（昭和 43）年 5 月発行  
レクリエーション指導者講習会  
指導のてびき  
A 4 版 108 ページ 表紙 緑色

昭和 43 年 5 月発行 指導の手びき 目次	
まえがき	1
<理論編>	
レクリエーションということ（Recreation）の意義	3
レクリエーション運動の振興方策	6
明るい人間関係	10
仕事と健康	13
レクリエーション活動の計画	16
レクリエーションリーダーのあり方	22
<実際編>	
つどいの開き方と司会の仕方入門	25
野外活動の意義と計画	29
室内ゲーム	36
戸外ゲーム	45
簡易スポーツ	53
みんなで歌おう	61
フォークダンス	68
バスの中を楽しく	87
陶芸	90
参考資料	95

「レクリエーション指導者講習会指導の手びき」は、1969（昭和 44）年 5 月「レクリエーション指導者指導の手びき」へと変遷した。

この夏、仙台大学が社会体育コースの学生を対象に、レクリエーション指導者養成の夏期集中講座を開講した。これが高等教育機関で資格取得が可能になった課程認定校制度の始まりとされているが、講習会の文言を削除したことが、高等教育機関での指導者養成を意識したことだったかは不明である。

表 1 のように、1971（昭和 46）年に「指導の手引き」（赤）が発行されたと記録されていたが、1969（昭和 44）年に全 108 ページの同書が、赤色表紙で全 142 ページに改訂されていたことが確認できた。また、1970（昭和 45）年 5 月発行の手びきの表紙は空色であった。テキスト名称が同じにもかかわらず奥付に版数の記録が残っていないことから、編集者の手元の残っていた資料を参考として表 1 のような、改訂の歴史が日本レク協会の五十年史に刻まれた可能性がありそうである。



1969（昭和 44）年 5 月発行  
レクリエーション指導者  
指導のてびき  
A 4 版 142 ページ 表紙 赤色

## テキストに取り上げられた指導者像の変遷について

指導者の個人としての資質や行動力、指導者像に関して「指導の手びき」では、レクリエーションリーダーのあり方を「リーダーの心構え」として、次のように規定している。

### リーダーの心構え

あまり努力をしないでも、リーダーの資質を備えている人と、そうでない人の差はあるが、「努力にまさる天才なし」ということばもあるとおり、努力次第で、誰でもリーダーになれる。

リーダーは技術もだいじだが、人柄がもっとだいじである。

1. 熱意と思いやりをもってやる
2. 広い視野と豊かな教養
3. くふうと想像力を発揮して
4. 強い責任感と奉仕の精神で

※1～4にはそれぞれ4～8行のコメントが付されているがここでは割愛した。

これら4つの心構えは、「指導者の手びき（黄）」が1978（昭和53）8月に発行されるまでの間、テキストに位置づけられていた。「指導者の手びき（黄）」は、レク指導者の資質や行動力、指導者像を「レク指導者のための10カ条」として、次のように規定した。

### レク指導者のための10カ条

レク指導者の資質、指導者像について、レク運動とむすびつけて基本的にふまえておきたい10項目を希望、目標、ねがいの意味をこめて追求してみます。

1. 人間を大切にすること
2. 人びとの連帯をめざすこと
3. すべての人びとにレクを届けること
4. ボランティア精神をもって活動すること
5. 健康への意欲をもつこと
6. 文化への関心をもつこと
7. はばの広さとともに深さを身につけること
8. 新しいプログラムの開発につとめること
9. 環境問題に関心をもつこと
10. 日本の社会と国際社会に関心をもつこと

※1～10にはそれぞれ6～8行のコメントが付されているがここでは割愛した。

1990（平成2）年に出版された「レクリエーション概論」は、レクリエーション指導者は余暇生活の総合的な支援者として脱皮することが求められている、という考えのもと、5章17節のテーマで編集された。福祉や学校、職場、町づくりなど、レクリエーション運動の領域の広がりや各領域で活躍が期待される指導者像を創造する一方で、10カ条のような指導者像を規定する内容は弱められた。資格登録とともに地域レクリエーション協会への会員登録を義務づけ、指導者から会費を徴収する指導者会員制度の導入が図られるなど、日本レク協会のマネジメントの思惑までもがテキスト内容に認められるようになった。

この後も1993（平成5）年に「レクリエーション入門」が基礎理論、指導の理論、組織の経営論、サービス論、レク実技の5章立てで、2000（平成12）年に「楽しいをつくる～やさしいレクリエーション実践～」が基礎理論、支援の理論、組織の経営論、サービス論、コミュニケーション・ワーク、レク種目の実際の6章立てで構成され発行された。いずれのテキストも、支援者として期待される領域ごとの役割は紹介されているものの、指導者としての個人の資質や行動力、指導者像を規定する内容は曖昧さに包まれてしまった。

2007（平成19）年に発行された、「レクリエーション支援の基礎」は、組織の経営論が基礎理論に包含され、支援論、事業論、コミュニケーション・ワーク、目的に合わせたレ

クリエーション・ワーク、対象にあわせたレクリエーション・ワーク、巻末資料の7章立てで構成された。このテキストには、レクリエーション・インストラクターが身につける知識・技能の目標として、①プログラムやアクティビティを展開するリーダーとしての能力、②グループワークを活用する支援者としての能力、③地域活動の推進者（ファシリテーター）としての能力、の3つが示され、学習目標が設定された。

## 考察

本稿では、日本レク協会が発行してきたテキスト内容とテキストが規定してきた指導者像の変遷を振り返ったところ、次のことが明らかになった。

- ・資格付与による初めてのレクリエーション指導者養成テキストは、1967（昭和42）年に日本レク協会から発行された。
- ・初期のテキストはA4版で理論約20ページ、実技約70ページの構成割合だった。
- ・テキストの大部分は日本レク協会事務局職員によって執筆されており、高等教育機関の研究者による執筆箇所はわずかに散見できる程度であった。
- ・指導者養成から支援者養成に考え方が移行するなかで、レクリエーション指導者としての個人の資質や行動力、能力を規定する内容は弱められ、支援者として身につけておきたい知識・技能を規定する内容へと変遷していった。
- ・支援者養成の考え方が打ち出されたことにより、各領域で求められる指導者像が役割論的に描かれるようになり、指導者としての個人の資質や行動力、能力を高める教育に必要なリーダーシップ論の展開が鈍化していった。

## まとめ

資格の認定機関である、日本レク協会の指導者養成テキストでは、実技の内容としてゲーム・ソング・ダンスを活用した実践が推奨され、これらの指導技術の向上や提供方法を身につけることが求められてきた。指導者像を規定するテキストの表現も、指導から支援へのパラダイム変換とともに、指導者個人の資質や行動力、能力の形成を期待する内容から、レクリエーション支援者として身につけておきたい知識・技能の修得を期待する内容へと変遷した。我が国のレクリエーション指導者養成は、民間団体の資格制度に依存することでテクニカルな指導者を多数輩出することができ、一定の成果を残してきたといえよう。しかし、実技指導ができることと、リーダーシップの問題は、全く異なった資質であるにも関わらず、実技指導ができるようになることがリーダーシップ教育であるかのごとく、リーダーシップ論の本質をすり替えて、実技指導重視の教育が行われてきたようだ。

米国では「THE Recreation Leader (HARBIN, 1952)」や「RECREATION LEADERSHIP (CORBIN, 1953)」「RECREATION TODAY: PLANNING AND LEADERSHIP (KRAUS, 1977)」などを一例として、レクリエーション指導者のリーダーシップに焦点をあてたテキスト類が多数発行されてきている。また、高等教育機関によるレジャー・レクリエーション指導者の教育体制も大学、大学院のレベルで充実している。

今後の我が国の指導者養成には、テクニカルな指導者を多数輩出してきたこれまでの実績を堅持しつつも、資格付与による指導者養成テキストだけでは十分に語られてこなかった、レクリエーションリーダーシップ論の議論を、サービスシステムの再構築を担うミドルマネジャー育成の視点に立ち、成熟させていく必要性を見出せそうである。